



第53号

平成5年12月25日  
発行所  
茨城県東茨城郡  
内原町鯉淵5965  
鯉淵学園同窓会  
☎319-03 TEL 0292-59-2811  
振替口座 宇都宮3-1632番  
印刷所  
佐藤印刷株式会社

## 老畜舎に感謝をこめて

十月中旬、それまで一杯に詰め込まれていた稲藁、自家産乾草、搾乳用機器など、きれいに移動され、広々と、むしろ閑寂とした旧成牛舎の二階に私は立っていた。

西の入口の側面の板壁には「鯉淵学園酪農場」と色あせることなく黒々と書かれてあった。二階がこんなに明るかったのかと気づいたのはその時が初



めの様な気がする。

今までは、何時でも稲藁、乾草などで両側の窓は閉ざされ、光は入ってこなかった。それで板壁の文字も新鮮に映ったのかもしれない。

遮蔽物を取り除かれた窓からは、二階の隅々まで光がさし込んでいた。

考え方を変えれば、いつも暗い二階は、倉庫として充分活躍していた事になる。

コンクリート瓦は時の経過と共に老朽化し、割れている箇所もあったが、骨組の梁は、しっかりしていて、縦横に組まれた木々は、当時のメイン建築物に相応しく、安心感さえあたえられる頑強なものだった。

一階に降りると、北と南の両側に大きな窓がつづき、風通し良くなっており、西の入口寄りの両サイドは、各々六頭と五頭の成牛を繋げるスタンション、北側の奥に二つの産室、南の奥は仔牛を入れる房が五つ並んでいる。

思えばこの産室では色々な事があった。

胎児の足にロープを掛け、四〜五人で引っ張り出したり、それでも出ずにローダーの力まで借りて助産した分娩。双子の誕生、死産、母牛の死など、この産室は、喜びや困難、技術等、様々な事を私に教えてくれた。

特に、学生の頃、ここで初めて仔牛の誕生にふれ、感動した人は少なくないはずである。

この建物の中では常に生命の誕生と死が、くり返され、それを学ぶ機会を私達に与えてきた。

書き連ねればきりが無い程多くの歴史を持ち、鯉淵学園酪農場と共にあった畜舎の一つであろう。

「その畜舎もこれで見納めだなあ」と、ある種の感慨にふけながら、感謝の気持ちを込めて旧成牛舎を見渡した私だった。

その後、十月下旬から職員と学生で解体作業が行われ、多くの学生の手で



旧成牛舎は徐々にその役目を終えていった。

現在は後地に、肉牛の繁殖肥育一環牛舎が建設中である。

また新しい歴史の一步が酪農場で始まろうとしている。(編集部 工藤)

## 同窓会の会長就任にあたって

―とくに50周年事業の成功にむけて―

会長 福丸博房(東京都 期)

会員の皆様には、ますます御健勝にて、ご活躍のことお喜び申しあげます。

第二一回の同窓会において、会長に選任されました。今まで会長代行を務めていましたが、この大役をやること

になりました。よろしくお願い致します。私としては他に適任の方がいるのではないかと思ひ固辞したのですが、東京支部の有志の集まりや、常任委員会においても会長代行を取ってやれという方が多く、引き受けることを決めた次第です。この重要な時期でありますが会員の皆さんのご協力、ご指導を心からお願ひ申し上げます。

大会には遠くは岩手、静岡、兵庫、愛媛から、そして近頃の支部の皆さんが多数集まって頂き熱心な討議をいただきました。あらためて暑くお礼申し上げます。また、同期の諸兄が多く参加、協力励ましてくれ感謝しています。

大会については、別に掲載します大会報告のとおりであります。平成四、五年度の事業報告、決算、監査報告と万上一致承認されました。また、新年度（平成六、七年度）の事業計画、予算も建設的な意見を頂き承認されました。

特に次のことについて、ご協力とお願い申し上げます。

一、鯉淵学園の創立五十周年記念事業について

この半世紀におよぶ歴史的記念事業を成功させるため、同窓会では第二十回大会で、同窓会、農民教育協会、学園が一体となって取り組むことを決定し、記念事業実行委員会等の議を得て、この第二十二回大会においてその具体的に取り組むことを決



めました。特に記念事業の中でもっと大きな柱であります図書館建設のための募金事業であります。同窓会は総額五千万円、一人一万円以上の募金を集めることを決定しました。具体的には趣意書でお願いすることになります。この景気低迷の時ですが、みなさんの絶大なるご協力をお願いし、成功させなければなりません。

二、支部組織の充実強化について

支部によって毎年総会を開催し、支部独自の事業を行い会員相互の親睦を図っているところもありますが、多くの支部は、かなり停滞しています。同窓会活動の原点であります会員の協力がどうしても必要であります。同窓会や、職場の先輩後輩、隣

町の同窓生と会う機会をつくり、同窓会活動の強化、活性化の為にご協力を願ひします。本部もその努力を惜しむものではありません。

三、同窓会費の納入について

会員の協力により、大会決定に基づく事業を実行していますが、その実行の資源であります会費が入らないと事業は実行できません。会費の納入方法については、毎年度納める方法と、終身会費として納める方法をとっております。また、郵便振り込みについてもできるだけ手間をとらせないように努力していますのでよろしく願ひします。

四、学園に対する支援活動、特に学生募集の協力について

来るべき二一世紀に向け、日本の



学園のそ菜研究室では、研究の一つとして日本国内と世界各国のカボチャ品種収集しています。現在までに三〇〇品種あり、交雑種も含めると約四〇〇種類の種子を保存しています。国内のものは北海道から沖縄県まで、海外からは三〇ヶ国の品種があります。日本人が食べているカボチャは、栗

農政の方向等を展望しながら、学園の教育の在り方等について、「鯉淵学園の刷新方向」がだされました。それは「本科四年制」と「専修学校」として、平成七年に学園の五十周年記念と併せてスタートすることになりました。学園の特色を対外的にも示し今後維持して行くためにも、同窓生各位の協力と支援が必要です。また、毎年協力しています学生募集について、今年もその時期がきています。前年に増して、農業・農村に愛着をもち「やる気」のある後輩を一人でも多くご紹介、ご推薦を下さるよう願ひする次第であります。最後に、同窓生各位のご健勝と、ご活躍を祈願しまして会長就任の挨拶とさせていただきます。



カボチャなども呼ばれる「西洋カボ

チャ」が主流ですが、近年輸入品が激増し、輸送にともなう安全性が気がかりです。同時に季節的にも価格の面でも国内のカボチャ農家が脅かされています。西洋カボチャは食味が喜ばれて普及しましたが、ウドンコ病などに弱く、適地でない栽培中の農産散布も多いのが実情です。

日本では、四五〇年前にポルトガル船が持ちこんだといわれる「日本カボチャ」が伝統的なものでしたが、栽培は極めて少なくなっています。

日本カボチャはウドンコ病に比較的強いものが多く、最近発生しつつあるカボチャ立枯病にも強いことが判明し、その価値は見直される必要があります。自然農法や有機農法に適した品種群であると思います。

私たちが品種の収集にとりくんだの

は、こうした貴重なカボチャ品種を絶やしたくない、国内生産に適したカボチャの活用と普及をはかりたい、との趣旨からです。ほかに「ペポカボチャ」や近縁野生種、鑑賞用カボチャなど面白いカボチャがたくさんあります。果実の形も実に様々です。

学園では収集とともに、今年まで四年間学園祭で果実の展示発表をしてきました。毎年一〇〇から一五〇品種を展示して好評でした。

学園では、関心があつて栽培してみたい方に種子を無料でお分けします。一人五品種（各三粒、品種当方はからい）とします。希望される方は返信用封筒に切手七二円を貼って学園まで申込み下さい。大々的に活用を希望される場合はご相談下さい。

△申込み先▽ 鯉淵学園そさい研究室

## 第21回大会報告

### 会長に福丸博房（九期）氏 創立五十周年記念事業取り組みは ― 全員発起人の熱意で ―

十一月三日（水）開催された第二十一回同窓会は、好天に恵まれ、恒例学園の賑わいの中、五番教室を会場に会員五十二名出席で開催され、冒頭、昭和二十五年六月から今月までの四十二年三カ月間にわたり、学園職員

として職務に精励されて退職した中野妙子様に対する記念品を添えた感謝状の贈呈を行い、福丸会長代行挨拶に続いて、農民教育協会二瓶理事長及び戸学園長からは、それぞれ、学園の改組、学園創立五十周年記念事業並びに学園の現状と将来像が、力強く構想さ

れる祝辞を賜り、大会の序章に相応しい盛り上りと、今後、大きな期待が寄せられました。

今大会は、組織の充実強化及び活性化推進、分収林雪害復旧及び、学園創立五十周年記念事業への取り組みを巡って、同窓会の盛運を懸ける正念場ともなり、欠損金計上の決算審議に質疑が集中しましたが、今後の躍進を期しての承認となりました。

また、欠損金及びその補填計画の絡みから、会計処理、特に科目整理を実施して収支勘定を明瞭にする等、会計原則の樹立が囑望されました。

役員改選では、東京都、埼玉県両支部からの推進による会長代行福丸博房（九期）氏が、会長に選任されたほか、別掲のとおりであります。

大会人事、議長 中村恵一（四期・茨城）、議事録署名人 松田喧信（七期・茨城）、西村典夫（四期・学園）、書記 佐藤利文（四十五期・学園）

最後は、中村議長からの提言、「創立五十周年記念事業は、全員、発起人の熱意で取り組みを」を満場拍手で締めくくり閉会、懇親会場の同窓会館に移動しました。

懇親会は、大会出席者のほかに、新たに学園教職員及び学生自治会三役を迎え、福丸新会長挨拶、遠来の栗山要（二期・兵庫）会員の乾杯で開宴、賑やかに、和やかな同窓交流のうちに、午後六時過ぎまで続き、学園祭の終幕

を告げる、大出利明会員（三十四期・栃木）特製の打上花火に見送られての散会となりました。



#### 大会決議事項概略

- 1 平成四・五年度事業報告
- 1 会報の発行
  - 特集号 平成三年十月五日
  - 第48号 〃 十二月二十五日
  - 第49号 平成四年六月二十五日
  - 第50号 〃 十二月二十五日
  - 第51号 平成五年六月二十五日
- 2 会員名簿の発行
- 印刷製本部数 二、四〇〇冊
- 販売部数 二、〇三四冊
- 贈呈、事務使用 一一〇冊
- 残り部数 二五六冊

### 3 支部組織の強化

#### (1) 支部組織の充実強化並びに活性化推進

同窓会活動の隆盛は、支部との強調を基とした共有の成果と認識し、積極的に対応、次に集会に出席して指導交流を行いました。

三年十一月 新潟県支部 関 出席  
四年 六月 兵庫支部 坪野出席  
五月 九月 岩手支部 岩持出席  
五月 一月 栃木支部 西村出席  
六月 六月 秋田支部 岩持出席  
六月 京都支部 岩持出席  
七月 兵庫支部 福丸出席  
九月 岩手支部 福丸出席

同期生会では、四、五、十二、十三、二十一及び二十六の各期より連絡を受け、それぞれ、役員を派遣しました。

#### (2) 全国都道府県支部長会議

支部組織の充実強化並びに、学園創立五十周年記念事業取り組み対策として、全国を五ブロックに分けて実施。(内容及び結果は、会報50・51号に報



告してありますので省略します。)

#### 4 常任委員会等の開催

三年十一月三日 坪野事務局長承認。  
四年三月十四日 創立五十周年記念事業

業進め方で意見交換。  
六月十三日 記念事業の進め方(会報51号 参照)及び全

国支部長会議開催同意。  
七月十四日 事務局全体協議会(学

園に在職する委員で構成、全員常任委員でも

ある。)を開き、支部長会議開催で意見調整。

八月二十二日 支部長等合同会議実施。

五年三月十三日 会長代行者選任。  
九月二十五日 第二十一回大会運

営協議。

5 学園への協力  
同窓会活動の基本として、学園の振

興及び、繁栄対策への支援が、最優先課題であるとの認識から、学生募集活

動を恒常的に展開、会報への記事掲載及び支部総会等あらゆる機会を活用した宣伝啓蒙と、学園教職員の出張募集活動に対する協力、支援の結果が、平成五年入学の成績に繋がったものと評価できます。

#### 6 分収林の管理

平成三年の積雪による倒折木被害に対応して、杉苗二〇〇本の補植と山林回復作業及び、除草剤による葛の退治を兼ねた下草刈り作業を、専門家に委託して実施した結果、山の「すがた」を取り戻すことが出来ました。

7 学園創立五十周年記念事業への取り組み  
常任委員会及び支部長会議等による協議を重ねる一方、記念事業準備委員会に参画して、別掲「学園創立五十周年記念事業原案」(概要)の作成に寄与しました。

II 平成四・五年度決算報告  
別掲参照

III 平成六・七年度事業計画  
I 会報の発行  
大会案内を兼ねた特集号も、しっかり定着して重要な役割を果たしておりますので、定期発行とし、番号を付けて整理する。

第52号 平成五年十月十日  
第53号 平成五年十二月十日  
第54号 平成六年六月十日  
第55号 平成六年十二月十日  
第56号 平成七年六月十日

#### 2 都道府県支部組織の充実強化

平成四・五年度に引き続き、支部活動の活性化方針を推進し、本会の精神が、全国の隅々まで行き渡るよう努力する必要があります。

その対策として、従来から実施してきた支部集会の開催指導及び、役員派遣交流を積極的にを行い、かつ、全国都道府県支部長会議を、定期的

に実施できるよう、財政の確立を急ぎます。

3 学園に対する支援活動  
学園との共通理念を基調として、鯉

淵で学ぶ後輩の夢を、少しでも大きく膨らませて上げることが出来れば、取りも直さず、多くの若者を魅了して鯉淵を志向する学生が増え、学園の、確固たる繁栄が招かれます。

従って、従来実施してきた会報への学生募集広報、支部集会等での学生募集宣伝及び、教職員の出張募集活動に対する支援は、常に、積極的精神で当たるほか、支援活動工夫の手始めとして、創立五十周年記念事業の完遂を目指します。

4 分収林の管理  
平成四・五年度の専門家委託による徹底管理によって、「山のすがた」を取り戻しましたが、今後、目を放すことは出来ません。常に手当てして、育林事業の使命を果たす必要がありますので、定期的に巡視し、専門家の意見を参考に対応します。

委員 協合理事長事務室職員

学園職員全員

同窓会代表(約十名)

学生自治会執行部、学

園祭実行委員、学生保

護者代表若干名

(3) 幹事会

運営委員会の原案作成に当たる。

事業実施上の重要事項の決定を

行う。

(構成)

幹事長 学園長

幹事 実行委員会委員中の運営

会議メンバー全員

各分科会長

同窓会代表二名

学生自治会二名

学生保護者代表二名

(4) 分科会

① 記念行事分科会

分科会長

会員

事務局(学園総務部庶務係を

含む)

② 五十年史編纂分科会

分科会長

会員(同窓会代表二名を含む)

③ 図書館建設分科会

分科会長(整備委員会委員長)

会員(整備委員会、同窓会代

表二名をもって構成)

事務局(整備委員会事務局、

学園総務部管理係)

④ 募金分科会

分科会長

運営委員会 平成六年四月予定

※平成五年一月上旬に同窓会定期大

会が予定されているので、運営委員

会より、同窓会に対して募金協力額

の要請を行い、同大会に於いて決議

を得る必要がある。また、同会の常

兵庫県支部

平成五年度定例総会開催される

同窓会本部長代行 福丸 博 房  
副会長

兵庫県支部(支部長、足立優(七期))

は、平成五年七月十日(土)一日

(日)、平成五年度の定例総会が兵庫県

養父町の遊湯味覚、但馬楽座にて開催

されました。総会は、支部長挨拶をう

け、議長に下期の奥田和男さんを選出

同窓会本部から私が出席し、先に決定

されました「鯉湖学園の刷新方向」に

ついて、今後、とりくむ「学園創立五

十周年記念行事」について、そして同

窓会等の活動状況について挨拶を兼ね

報告をさせていただきました。隣接支

部の京都府支部から支部長と幹事長さ

んも出席され藤井文信支部長は、今後

両支部合同の同窓会をもち親睦を図っ

てゆきたいとの挨拶がされ、つづいて、

議事に入り提案された事項は、全員の

任委員会は、九月下旬〜十月上旬に、  
開催が予定されている。

会員

事務局(学園総務部経理係)

⑤ その他

各委員会の発足

準備委員会 平成五年六月二二日

実行委員会 平成五年十月予定

賛成により可決、承認されました。役

員は、現役員が留任となりました。

特別講演として、二期の堀端俊造さ

んの、国際協力事業団派遣専門家とし

て、長年にわたる海外での生活を通じ

て、タンザニアの話など、経験された

国際協力事業について、ユーモアを含

めた話がありました。

また、静岡から二期の新関八千代

さんも同期生に会えるとのことで見え

ていました。

懇親会は、自己紹介を聞きながら、

さかづきを交わし、カラオケでそれぞ

れ自慢のものが披露され、夜のふける

のも忘れ懇親を深め、陣陣をくみ寮歌

を歌い、一次会を終わりました。翌日

は、朝食後散会となりましたが、幹事

宮城 七期  
悼 伊東 善光  
十月七日死亡

さんのはからいで、近くにある初代鯉  
湖学園長であった小出満二先生の生地  
を見学することができました。  
最後に、兵庫県支部の益々のご発展  
を祈願して報告かかえさせていただきました。  
(出席は二十名でした。)

五十周年記念事業寄附金仮受

(京都)

12 正木 明三 万円

年度会費納入者

皆様の絶大なご協力により、今回で  
平成四・五年度会費の納入状況は、二・  
三年度とはほぼ同額になりました。誠  
に有り難うございました。しかし、今  
年度は五十周年記念事業など、広範な  
活動を予定し収入予算を大きくしてあ  
りましたので、予算達成に向けて支部  
会、同級会などで未納者の方々に呼び  
掛けて下さると大変有り難く存じます。  
以下に納入者のお名前を掲載し、領  
収書に替えさせていただきます。なお、  
無印は五年度まで、○中の数字はその  
年度まで納入したことを示します。